

防具担いで「交剣知愛」【三】

柳生坂下剣禅道場 森下哲次



柳生坂下剣禅道場玄関

座の帰りにこの合宿に参加し、国際色豊かな稽古風景でした。宗教では得られない自らの心の質を高めたいと、西洋人は「動く日本文化」武道を求めています。

道場

道場の広さは十五畳四方程度で、現代の体育館から考えると大変狭く感じますが、当時としては大変広い道場でした。全剣連初代会長、木村篤太郎先生の銅像前から撮りました玄関には、江戸時代の建築様式が見えます。剣道場内の周りは廊下で、その周りに座禅用の座敷が設けられています。

江戸時代の田舎では、剣術の稽古に庄屋の「納屋」が使われていました。



50名の地稽古

稽古

朝の2時間、学生は基本技の稽古に余念がない。大きくしつかりとした基本打突は古谷福之助初代師範から後進へと正しく受け継がれています。古谷先生は、故村山範士と同じく、最後の武道専門学校（武専）卒業生でした。これが武道専門学校で会得され、今日まで受け継がれている「剣の道」の一つなのです。

昼からの二時間は卒業生も交じって、基本打突での応用技と引き立て稽古です。

打とうと思わないのに体が動き、「先々の先」の技が出たことを、打突した後で気付きます。

二日目は奈良女子大学と京都精華大学剣道部員が加わり、総勢50名ほどが打ち合いました。

学生にとっては、親善訪問で来られた人々との稽古も楽しみの一つです。

今年も学生の稽古途中、静かに道場を後にしました。

「わしがわしがと表に出ないことが剣の道」だと、師範から言い伝えられています。

座禅

早朝6時30分、法主が道場に来られ、剣道や日常生活での心の持ち方を「説明」していただきました。

岡村忠典、元日本学生剣道連盟会長は剣道に深く関わる禅宗の心を述べています。

道場の着替え戸棚には禅の「四字熟

語」が書かれています。

「武道は時代や場所を超えた普遍的価値を持つているから、『武士道』に意義がある。勝利至上主義は、多くの外国人が求める本来の武道から逸脱するもので、日本が本来の姿を取り戻さなければ、武道全体の将来はない」と関西学院大学准教授のアレキサンダー・ベネットは断言しています。尊敬に値する武道を「人間の魂を高める目的」に舵を切るのが、日本武道家の務めではないか？



四字熟語



芳徳寺

柳生家菩提を守る芳徳寺は、正門を入って左奥の谷を越えた辺りに、石舟斎から続く尾張柳生と江戸柳生代々のお墓があります。

学生夏期合宿に参加

十数年前から大阪工業大学剣道部部員の夏期合宿場は「柳生坂下剣禅道場」です。今年も、8月13日に一泊で参加しました。つまり、柳生宗矩とその兄弟が子供の頃から剣術だけではなく、いろいろな武術を修練した場所での合宿です。

国際的

昨年度は、三木市剣道連盟の会員であるケネディー君と共に、フランスからはワイナリー家族が日本での外国人研修講

安栖敏夫先生を悼む



三木市剣道連盟指導顧問、安栖敏夫先生（剣道教士7段）は、去る7月9日、急逝されました。

5月ごろから体調を崩し、体調不良の上に心の不安も重なったので、神戸市西区北山台の自宅から、ご子息の尚忠さんの灘区鶴甲のお宅に引き取られ静養中でした。

安栖先生逝去の報は三木市剣道連盟の会員諸氏に大きな衝撃を与えました。先生の存在がわが連盟会員の大きな支えになっていたからであります。

安栖氏は三木市と境を接する神戸市西区北山台にお住まいで、ここは三木市の端、緑が丘まで一跨ぎ。会員の記憶では平成12年頃、三木高での「火曜会」の稽古や、緑が丘の教室に時折顔を出し、三木市剣道連盟の会員にアドバイスをいただいたとか。

「剣道だより」によれば、平成15年5月の「三木市剣道連盟50周年記念特集号」には、記念稽古で元立ちをとめておられる写真が載っていますし、平成16年、三木市を会

場に行われた「東播7市親善剣道大会」では県警の伊藤明裕先生と「日本剣道形」の演武をされました。平成18年には審判講習会の講師、平成20年には成人指導部長に就任、平成24年には後進を育てて成人指導部長を任せ、自身は指導顧問となり、文字通り三木市剣道連盟の三役として会員の指導に当たられました。

① 審判員の質の向上に努力。
その功績は枚挙にいとまありませんが、服装の厳正、立ち位置、旗の持ち方までこと細かく指導されました。おかげで市内の試合でも審判員の質は著しく向上し、立ち姿まで美しくなりました。

② 稽古の質を高め、レベルアップに貢献。
稽古会を組織し、稽古の中身を改善した。念入りの準備体操から始まり、素振り、基本打ち、技の稽古などにつなげ、そのあと互角稽古に進むパターンが連盟の稽古会で定着しました。礼法や座る位置まで口やかましく細かく指導し、今ではそれが自然になり違和感を覚えなくなったのは安栖先生の功績です。

③ 若者のやる気を引き出し、積極的に試合に臨んだこと。
連盟の稽古にどちらかといえば消極的だった若手を説得し、稽古会に誘い、試合に向けて意欲を喚起しました。「長野旗大会」「県の優勝大会」「東播8市親善大会」など入賞をめざし、目標をもって稽古するチームになったのは安栖先生のおかげです。

④ 紫雲館剣道場の師範になり会員の昇段を助けました。

紫雲館剣道場が開設されるや、推されて師範となり稽古に通う会員の実力アップに献身的に貢献しました。おかげでこの稽古から多くの高段者が出たことは周知の事実です。

⑤ 自ら稽古の先頭に立ち、休まなかった。
紫雲館の稽古以外にも月曜日の上ノ丸での稽古会、他市との交流稽古等、先生自身誰よりも多く稽古をし、率先垂範されました。

安栖先生は、開放的な性格で快活陽性、面倒見がよく、指導的立場にたっても、下働きができる人でした。たとえば試合には一人一人を説得し出場を促し、自分の車で選手を運んだりしました。年下の剣士を可愛がることは無類で、しばしば若手を自宅に招いて接待し、チーム作りにも負けたものでした。剣道に対する情熱は誰にも負けずとにかく熱心でした。そして常に人を励まし、心を込めて忠告し、惜しげもなく自分の持つていけるものを分け与えた人でした。

安栖敏夫先生を思んで

神澤 正輝

私が剣道を通じて影響を受けた四人の方々を、十年前に発行した五十周年記念誌に寄稿した中で紹介しましたが、五人目が現れました。その人が安栖敏夫氏です。

兵庫県警特別訓練生の中で厳しい稽古を積み、兵庫県代表メンバーとして全国大会に数多く出場されその活躍ぶりは目を見張るものがあります。特に全国警察大会で先生が大將で出場した時、当時全日本選手権大会優勝し一番脂の乗り切った警視庁千葉 仁選手が相手であった。分ければチー

ムが勝つという中、上段から繰り出す技を防戦ながらしので対戦するも、時間終了直前に小手を取られ負けはしたもののその試合ぶりは先生でないと出来ないといふも語り草になっています。そういった経験から我々に勝負にこだわった、一本を取りに行く執念というものを教えてもらいました。東播八市親善大会においても優勝チームに肉薄するまでになったのは、こういった先生の指導の結果の表れだと思います。

また永い間、八段受審資格があったにもかかわらず受審をされなかったのが急に挑戦の決意をされてから、今までの勝負にこだわった稽古内容を変え、姿勢を



正し面を中心にした基本に徹した稽古を始められたのは先生らしからぬ一面を見た気がしました。その結果が一次審査合格という形になったのは器用さも持つておられたんだなと思ひ知らされました。

剣道に対する思いは誰よりも強く深く、今までの数多い経験を生かしまだまだ上を目指す姿勢を感じていましたし、自分がしなければという責任感には頭の下がる思い

がします。わが連盟にとっても私にとっても非常に大きいものを無くしました。先生の思いをしつかり胸に刻みこれからの修行に活かすことが恩返しになると改めて思います。

剣道教士七段

安栖敏夫先生！

小椋 治朗

審判の服装の徹底。
準備運動の徹底。

大会後の選手（若手会員）と意思の疎通を図る為の慰労会。

三木市の剣道に確立され、残されたものは数々あります。

日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法に関しては、県の審査員としての経験を生かし、合格を踏まえた指導をして頂き、恩恵を受けた会員は多いはずで。何よりも高段者としてのプライドと自覚を持った稽古は、私の目標とするところです。十年以上も警察の特録で剣道の専門家として全日本や国体の選手も経験されている。さぞ激しい、厳しい稽古を積まれたことだろう。エゲツナイ剣道も身につけられていただろう。しかし、十三年間、お付き合いをさせて頂いたが、色々な稽古会に一緒にさせて頂きました。色々な稽古会に一緒にさせて頂きました。感情に左右されるような稽古を見たことはありません。又、我々が社会体育で学んできた事を尊重し、自らも取り入れる大ききを持つ剣道家でした。

『良い事は良い。正しい事は正しい』と徹底する一途さは、事なかれ主義の三木剣連に無くてならない指導者でした。

自前で若手を稽古に連れて行き、昇段審査では、下げなくてもよい頭を下げ、稽古会、大会、幹事会と三木市剣道連盟の為に尽くして頂きました。



剣道の田舎から、剣道の専門家を無くしてしまいました。

悔しくて、悔しくてなりません。後十年一緒に剣道がしたかった。後二十年、一緒に酒が飲みたかった。

私は剣道人生を終えるまで『安栖敏夫』の剣道を盗み続けます。その時まで『有難うございました。お別れです。』はオアズケにします。『これからもご指導お願いします！』

安栖敏夫先生を偲ぶ

植田吉則

風呂に入ると、安栖敏夫先生のことを思い出します。それは、先生が私にだけ（？）こつそりと教えてくださった、練習法があるからです。六段昇段を目指して、仕事の合間を縫うようにして、何とか練習回数を確保しようとしていた時、安栖先生が、「剣道の練習は、一人でもできるし、やる気になれば、便所でも、風呂でもできる。と、こつそり、耳打ちして教えてくださった練習法が「お風呂剣道」でした。

「風呂に入つて、ポーツと湯に浸かつたら」と、タオルを竹刀の柄に見立てて持ち、ジャブんと湯につけて、持ち上げ、構える。そして、メン！と打つ。手の内が決まれば湯がジャ！と落ちる。それを三〇回もやれば汗びっしょりになり、良い練習になる。と、いうものでした。私は、それを教えて頂いてから、風呂に入ると、先生を思い出しながら、「お風呂剣道」をやっています。しかし、我が家では、湯船にタオルを持ち込まないので、私の「お風呂剣道」は、タオル無しで構え、素手を湯につけて、素振りをするというものです。この時も、手の内や竹刀の持ち方の基本をチェックし、手を利かして鋭く振ると、湯のしぶきが、風呂の壁の決まった所に当たり、それを一つの目安としながら、打ちのイメージを確認することができます。

「お風呂剣道」は、安栖先生が独自に編み出されたものかどうか、それは、私には確かめようがありませんが、確かに言える事は、私が、風呂に入ると、必ず先生を思

い出しながら、素振りをしているという事実です。

もう一つ、安栖先生を思い出さずにはいられない瞬間があります。それは、私道形の一人稽古、太刀の形、七本目です。仕太刀が、打太刀の右腕を諸手で打ち、右足を踏み出して左足の右斜め前に軽く右膝をつく。その後、脇構えに構えて、残心を示すその瞬間、いつも、安栖先生の「アツ！」とも「ウン！」とも聞こえる声が耳元です。

平成二十五年一月の三木市剣道連盟稽古始めで、私と大柴先生（錬士六段）が、日本剣道形を打たせていただいたおり、太刀の形七本目で、仕太刀の私が脇構えに構えた瞬間、勢い余って、私の剣先が下がり過ぎて、市民体育館の床に「パシッ！」と当たってしまった。その時、間髪を入れずに、あの声でした。その時、間髪を入れずに、あの声がしたのでした。その声は、録画DVDにおいても聞き取ることができません。あの声があたのタイミグで発せられたというのは、まさに、安栖先生が私と大柴先生の日本剣道形に集中して観ておられた証であると思っています。といえます。稽古始めに形を打つことが決まってから約一か月の間、私たちは、年末年始のせわしい時期にもかかわらず、できるだけ日を合わせて、日本剣道形の練習をしました。その練習を、安栖先生にも何度か観て頂き、指導して頂きました。その時の先生は、本当に真剣かつ熱心で、構えはもちろん、抜刀するまへの手の指先の開き具合や小太刀を構えた時の左手親指の位置にいたる細かな所作まで、一つ一つ丁寧に教えてくださいました。そのお蔭で、披露当日の形は、かなり自信を持って落ち着いた形を打つこ

とができました。しかし、太刀の形七本目のあのミスに対し、安栖先生は間髪を入れずに反応され、後で指導してくださいまし



た。剣道を、こよなく愛された安栖先生から数々の剣道にまつわる教えを頂きました。これからも、安栖先生の思い出と共に、剣の道を楽しんでまいりたいと思っています。

安栖先生を偲ぶ

西本英一郎

安栖先生、ありがとございました。安栖先生には、剣道家として、一人の人間として、本当に多くのことを教えて頂き成長させていただきました。

試合で勝って嬉しいとき、負けて悔しいとき、剣道で伸び悩んでいるとき、いつも

先生は、親身になってアドバイス、指導をいただきました。本当に世話になり、ありがとうございます。早く大会でいい結果を残して報告できるように、これからも頑張っていきます。

安栖先生を偲ぶ

松本克基

まず、最初に公私共にお世話になってた安栖先生がお亡くなりになったと聞き、大変なショックを隠せませんでした。

私は、長い間(大学卒業後剣道から離れていたのですが)前会長の小紫先生にお声をかけて頂きまして、剣道に復帰したタイミングと安栖先生が三木市剣道連盟に入会された時期が同じくらいだったのを記憶しています。

それからよく稽古をつけていただき、「まだまだ若いもんには負けん・・」とよく話されていたのを覚えています。

東播8市剣道大会で、三木市が入賞したところは、「三木市は弱かったけど徐々に力をつけだしている。みんな頑張っている」と先頭に立って指導していただきました。よく大会の後の反省会(お互い酔っ払いながら優勝しよう)と真剣に語り合えたのを昨日のように思います。

時折、ひょっこりと道場に防具を持ってこられるように思ってしまうのは、たぶん私だけではないと思います。

いつの日にか、先生と語り明かしていた夢を実現するために、私も微力ながら頑張

って、三木市剣道連盟に恩返ししたいと思っています。

在りし日の安栖先生

石田 隆

「違うやろ、左足・左腰・左手で打つんや」。私が約2年半前、館長小紫先生の「紫雲館」の門をたたき、稽古をつけていただいていたある日の安栖先生の叱咤激励の言葉であった。

安栖先生の言葉どおり、捨て身で「メン！」と打つと偶然にも正面に竹刀が炸裂した。先生は、やられたという素振りを見せられながら(笑い)「そうやー!、そう打つんやー!」覚えておけよ!その打ちをしたら、五段に必ず合格する。時には厳しく、時には優しく稽古指導される姿には感銘を受けました。

剣道においては師弟関係でありましたが、剣道着を脱げば元警察官同士のいうこともあり、目には見えない相通じるものがあったように私は感じていました。

「人という文字は、支え合ってできる文字である。」とよく言われます。安栖先生と剣道を通じて、この文字を新たにしたのは私だけでしょうか。

先生の訃報を耳にしたときは晴天の霹靂でした。先生の病については、緘口令が敷かれていたのか、私の耳には訃報の一報が入ってから知り得たことが残念でなりません。

こんなこともありました。剣道着を脱ぎ、酒を飲み交わした時は、剣道談義に花を咲かせ、始めから最後まで「剣道・剣道・剣

道」の話で宴席も盛り上がり、酒を注文する声も「さけろえ」とヒートアップした大きな声で注文されていました。その声が今も脳裏の奥に残っております。

人はこの世に生を受ければ、遅かれ、早かれ必ず死がやってくるのは道理であります。

しかし、あまりにも早い永眠に。まだまだ後世に剣道を指導する責務があったのではないのでしょうか。

私たち、三木市剣道連盟に所属する剣道人としては、道半ばでその責務を絶たれたことは、当連盟にとっても大きな損失ではないでしょうか。

最後に、安栖先生が、生前によくおっしゃっていた「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」という剣道の理念を先生の遺言として、残された剣道人として後世に継承したいものです。

「安栖先生、先生のお陰でこの4月に五段審査に合格しました。」心から感謝とご冥福をお祈ります。 合掌

安栖先生を偲んで

田畑 修

安栖敏夫先生に初めてお逢いしたのは、平成十二年の秋だったと記憶しています。

六段審査を受ける為に、三木高校の剣道場で、小椋先生、田中司先生、私の三人で日本剣道形の稽古をしている所にひょっこり来られて、丁寧に教えて頂きました。その時に教わった中で今でも覚えているのは、太刀の形、五本目、打立ちは顎まで切り下げる心持で打ち下ろす。仕太刀の刀を目

がけて打ち下ろさないようにする。すり上げられたとき、刀は死に太刀となり、構えを解いた程度まで落ちる。身振り、手振りで教えてもらいました。

後でわかったのですが兵庫県警の剣道特練に十五年間在籍され、とても活躍された話を聞きました。紫雲館剣道場ができて一緒に剣道をさせて頂き、いろんな事を教えて頂きました。私が七段審査で苦しんでいる時安栖先生は迷ったら、もう一度基本にもどろう、素振り、面打ちからやり直そうと示範してアドバイスしていただきました。火曜日、木曜日、土曜日の稽古で基本と形をしっかりとやってもらったおかげで七段に合格した時はとても喜んで下さいました。

いろいろ教えてもらったことを次に伝えていきたいと思えます。もともと三木市剣道連盟の為にご尽力して頂きました。ご冥福をお祈りいたします。

熱い人 安栖先生

澤田 薫

熱い人、とはまさに安栖先生のこと。先生がそこにいらっしやるだけで、周りの空気の温度が上がったように感じたのは私一人ではなかったと思います。

三木市剣道連盟の幹事、後には指導部長を快くお引き受け下さって以来、自ら率先して指導部をまとめられ、若い人をぐいぐい引っ張っていかれるその指導力は、ただただ感嘆するばかりでありました。

また、幹事会への案内状をお出しすると、いつも真っ先にFAXでお返事をください

たのが安栖先生でした。豪放磊落で竹を割ったようなさっぱりとした性格の先生。幹事会での熱い「語り」と笑顔忘れられませぬ。さらに、細心の心配りと気配りをおろそかにしない先生はいつも私のような未熟者にさえ「澤田先生、澤田先生」と丁寧に接して下さい、また、稽古でかかっていたときも、うまくいかない私に、最後まであれこれと懇切丁寧に教えていただきました。得るところが多く、ほめていただいたおかげで励みになり自信がつかえました。剣道が好きで、お酒が好きで、人が好きで、三木市剣道連盟に火をつけた熱い人、安栖先生。ありがとうございます。どうか、安らかに眠りください、と申し上げたいのは山々ですが、それよりも、本当のところ、もっとこれからも「こうせにやい、かんのや」と、頼りない私を叱咤激励していただきたい気持ちです。本当に残念、無念、悔しくてなりません。



月々の便り

丹野 骨平

霜天日々

处处落葉に 困こまじける

散歩は止める 時雨るる日

处处落葉に 困じける

山茶花満開 あでやかに

处处落葉に 困じける

七五三児も 髪上げし

处处落葉に 困じける

ふいご祭りや 三木の城

处处落葉に 困じける

味は秘伝のねぶか漬け

喜平捨欲

行事果たしし 古曆

鼻水すすり 雑炊喰ふ

行事果たしし 古曆

輿を叩きて 注連をな縛ふ

行事果たしし 古曆

積みたる文書皆捨つる

行事果たしし 古曆

鮭の粕汁 粗残る

行事果たしし 古曆

太りて美味いしそう 寒雀